

Religions for Peace

レリジョンズ・フォー・ピース
事務総長声明：アッザ・カラム教授

2021年5月12日

ガザとエルサレムの民間人への暴力は止めなければなりません。暴力はさらなる暴力を生み、人間の苦しみを増大させ、公正な平和を築くための長く続く困難な作業を遅らせることとなります。この暴力は—さらに致命的なことに—あらゆる意味で失敗したリーダーシップの証拠なのです。

Religions for Peace(レリジョンズ・フォー・ピース)は、パレスチナ人とイスラエル人双方の権利を尊重し、持続的な対話を通じて、痛みを伴いながらも名誉ある妥協を促し、聖地を共通の故郷とするユダヤ人、キリスト教徒、ムスリムが共有する道徳的信念に関わっていくことによってのみ平和が達成されると信じています。

罪のない多くのパレスチナ人が苦しんでいることも、罪のないイスラエル人を狙った攻撃も、正当化することはできません。これらの行為は、暴力の連鎖を助長し、実りある持続可能な解決策を生み出しません。

ユダヤ人、キリスト教徒、ムスリムは、すべての信仰を持つ人々の善意に支えられ、平和を築くための呼びかけと努力において団結しなければなりません。レリジョンズ・フォー・ピースは、半世紀にわたる諸宗教間の平和構築の取り組みから、真の安全保障とは「共有される安全保障／分かち合う安全保障 (Shared Security)」であることを知っています。

聖地で一人ひとりの平和と安全が実現しない限り、誰にとっても平和はありません。